

別表 組織診断で汎用される免疫染色 (堀内作成暫定版)

検査項目	使用抗体	概要
リンパ腫 T/B 鑑別	CD3, CD20 等	T 細胞表面抗原である CD3、B 細胞表面抗原である CD20 を利用した鑑別です。リンパ腫診断の標準であるリンパ腫の WHO 分類に基づく診断は、T/B 鑑別を行わなければ困難です。
肥満細胞腫と組織球性疾患の鑑別	c-kit, Iba-1	肥満細胞腫で発現が見られる c-kit、組織球系細胞マーカーである Iba-1 を利用した鑑別です。肥満細胞腫と組織球系細胞は通常の組織検査では鑑別できない症例も存在します。肥満細胞腫であった場合、グレードにもよっては化学療法の検討等が必要になりますが、組織球系細胞の増殖性疾患の多くは加療を必要としません。よって免疫染色による両者の鑑別は治療上意義を有するものと考えられます。
独立円形細胞鑑別	CD3, CD20, c-kit, Iba-1, HLA-DR 等	通常の組織検査では、独立円形細胞腫瘍としか診断し得ない症例に行う検査です。左記抗体を用いた検査で大体の独立円形細胞を鑑別することができます。
組織球腫と組織球症の鑑別	E-cadherin 他	組織球腫は自然退縮する変化と考えられていますが、組織球症の場合は免疫抑制剤が有効であると報告されています。通常、病変の分布などで両者は鑑別されますが、鑑別困難な症例も存在します。皮膚組織球腫は本検査に陽性を示しますが、組織球症は陰性となる性質を利用して鑑別を行います。

別表 組織診断で汎用される免疫染色 (堀内作成暫定版)

悪性黒色腫同定	S-100, Melan A	未分化な悪性黒色腫は褐色色素を含有しないものがあり、通常検査では断定できない症例が存在します。そのような症例の多くは、組織形態と S-100 と Melan A の染色評価によって診断することができます。
消化管紡錘形細胞肉腫鑑別	c-kit, a-sma S-100、他	消化管に発生する紡錘形細胞肉腫は消化管間質腫瘍 (GIST)、平滑筋肉腫、神経鞘腫瘍に大別されます。組織検査で明らかとなるものもありますが、確定診断のためには免疫染色による鑑別が必要となるものが多いと考えられています。左記 3 種抗体を用いた免疫染色で、大抵の消化管紡錘形細胞肉腫が鑑別可能となります。
未分化悪性腫瘍鑑別	CK vimentin 等	未分化な悪性腫瘍の内、上皮系腫瘍なのか間葉系腫瘍なのかいずれの鑑別も困難な症例の免疫染色による鑑別診断です。

以上は、診断を行う上である程度意義があると見込まれる代表的な染色の組み合わせです。他にも、当研究室が保有している抗体であれば対応できる検査もあります。ご要望があれば別途お問い合わせください。なお、免疫染色は確定診断を行う有効な追加検査ですが、完全な方法ではないため、追加検査を行ったとしても必ずしも確定診断に至るものではありません。